



発行所  
 十勝毎日新聞社  
 ©十勝毎日新聞社 2002  
 〒080-8688  
 帯広市東1条南8丁目  
 TEL(代表)0155-22-2121  
 編集局 0155-22-2121  
 広告局 0155-23-2323  
 販売局 0155-24-2222  
 事業局 0155-22-7555  
 総務局 0155-24-2299  
 広尾支局 01558-2-4111  
 池田支局 01557-2-2367  
 本別支局 01562-2-2618  
 新得支局 01566-4-5524  
 札幌支社 011-261-2161  
 東京支社 03-3544-1365

23日の天気  
 晴れ時々くもり  
 (帯広市) 詳細は最終面

本日の紙面  
 Tシャツデザイン公募、続々と 3面  
 日韓首脳、W杯の協力確認 4面  
 本別町、生涯学習でまちづくり 32面  
 ボランティアで子供三味線教室 39面

購読のお申し込みはフリーダイヤル  
 0120-25-3999  
 www.tokachi.co.jp/nanbai/  
 紙面へのご意見・ご要望は  
 読者センター 22-2121  
 WEB TOKACHI  
 www.tokachi.co.jp/  
 インターネットナンバー 02121

# ハイブリッド ロケット 打ち上げ成功

## 国内2例目 北大大学院のグループ

### 大 樹

【大樹】固体燃料と液体酸化剤を組み合わせた「ハイブリッドロケット」を研究する北大大学院の永田晴紀助教授らのグループが21日午後、大樹町で試験機の打ち上げに成功した。同ロケットの打ち上げは国内2例目、酸化剤に液体酸素を使う実用化タイプは初めてで、永田助教授は「これで基本的な技術は完成した」と話している。



関係者が見守る中、打ち上げに成功したハイブリッドロケット試験(21日午後、金野和彦撮影)

【大樹】固体燃料と液体酸化剤を組み合わせた「ハイブリッドロケット」を研究する北大大学院の永田晴紀助教授らのグループが21日午後、大樹町で試験機の打ち上げに成功した。同ロケットの打ち上げは国内2例目、酸化剤に液体酸素を使う実用化タイプは初めてで、永田助教授は「これで基本的な技術は完成した」と話している。

(30面に写真特集)

同ロケットは液体、固体各ロケットに比べ安全性が高く、低公害、低コストなのが特徴。道内外

の大学や民間が協力して開発を進め、昨年3月に「ハイブリッドロケット」を開発し、昨年3月に都立科学技術大の湯浅三郎が打ち上げた。北大は今回打ち上げられたのは、北大が新開発した全長1.6メートル、直径89ミリのロケット。固体燃料にアクリル樹脂、酸化剤に液体酸素を使う実用化モデルで、約3秒間の燃焼により、重量約10キログラムの機体を秒速約100メートルに加速させることができる。

実験の目的は打ち上げ技術の確立とエンジンの機能実証で、北大、道工大、都立科技大、東大の研究者が参加。東大中須賀研究室が製作した空乏径サイズの超小型人工衛星「CANASAT(キャンサット)」を搭載し、全球測位システム(GPS)による機体位置の測定とデータの無線送信も試験した。

打ち上げは大樹町美成の多目的航空公園近くの民有地で行われ、関係者約30人が見守る中、午後2時40分すぎに長さ3.6メートルの発射台に載せられたロケットに点火。角度84度で一直線に飛び出した機体は、瞬間に高度500メートルを超す上空に消え、パラシュートが開かず雪原に落下したものの無事に発見された。

回収された機体やCANASATは今後データ分析を進める。永田助教授は「液体酸素で打ち上げるのは難しかったが、ここまでできたことは大きな成果。今後はより大きく、より高くなる。課題は回収で、パラシュートではなく機体を制御し、滑空させて下ろすことが必要になる」と話している。(小林哲二)

## あす供用開始

### 札内清柳大橋盛大に記念式典

帯広市と幕別町をつなぐ「札内清柳大橋」(延長477メートル)が23日正午、両市町の小・中

生が参加し、新しい架け橋の完成を盛大に祝う。同橋は延長477メートルの小・中学生が「友情宣言」「交通安全宣言」をアピールしていく。式典では両市町の親子3代夫婦を先頭に関係者が橋を歩くほか、両市町で「自然と調和した橋」の小・中学生が「友情宣言」「交通安全宣言」をアピールしていく。式典には砂川敏文帯広市長、岡田和夫幕別町長、高井修帯広土木現業所長をはじめ約200人の関係者が出席する。